

第18回 全日本 女子ボクシング選手権大会



ひるた 書田
みずき 瑞希 陸士長

完全勝利
全試合 RSC

フェザー級
優勝

第18回全日本女子ボクシング選手権大会は令和元年10月16日(水)～20日(日)、北海道札幌市中央区北ガスアリーナ46で行われた。体育学校からは、フライ級に小村つばさ3等陸曹、フェザー級に書田瑞希陸士長の2名が出場した。また同時開催で第71回全日本社会人ボクシング選手権大会が行われ、近藤陸1等陸士が出場した。会場には、真駒内駐屯地司令をはじめ、冬季特別体育教育室の隊員とその家族も応援に駆け付け試合を盛り上げた。

2階級制覇 フライ級 フェザー級

書田士長は、昨年同大会フライ級で優勝し、今年度は階級を変えてフェザー級に挑んだ。1回戦、宮崎真希選手(北海道・ワイズケア)にRSC※¹(2R0分30秒)で勝利。この試合で書田士長は、階級を2つ上げた事による自身のパンチの重みとフェザー級でも戦える確かな手応えを掴んだ。翌日の2回戦、岡田朋子選手(東京都・社会福祉法人天祐)に積極的にパンチを繰り出し、RSC(2R2分14秒)で勝利し、決勝に駒を進めた。

迎えた決勝の対戦相手は、昨年の全日本ジュニア選手権バンタム級優勝の古賀舞琴選手(愛知県・トヨタ自動車)となった。書田士長は試合開始から積極的に攻め、的確にパンチをヒットさせ相手に攻める隙を与えず、試合開始後1分43秒、重みある左フックを古賀選手の顔面にヒットさせ、わずか1Rでレフリーストップとなった。この瞬間、書田士長のRSCでの勝利が決まり、昨年のフライ級に続き2階級制覇となった。

思いは東京へ ボックスオフに挑む

全ての試合をRSCで勝利し、優勝を飾った、書田士長だったが、この大会は背水の陣で挑んだという。東京五輪出場への思いを強く抱く書田士長は、今大会で優勝出来なければ引退すると決めていた。

大会が近づくにつれ「ボクシングを続けたい、絶対に辞めたくない」という思いが高まり、必ず優勝する気持ちで大会に臨んだ。

フライ級の時は、減量で苦しみ体力的に不安があり、パンチ力もないと感じていた。筋力強化を図り万全の態勢で挑んだ今大会は、自分のパンチに重みがあり威力が増したと実感できた。また体力的にも余裕ができ、良いパフォーマンスが出来たという。

今後は課題であるメンタルを強化し、獲得したチャンピオンベルトを死守するため、12月上旬予定のボックスオフ※²で勝利し、東京五輪出場へ強い意欲を示す。

全日本社会人ボクシング選手権 MIDDLEミドル級 優勝

同時開催となった全日本社会人ボクシング選手権では、ミドル級で近藤1士が見事優勝を果たした。1回戦は米田樹選手(兵庫県・ALSOK姫路)をRSC(2R2分8秒)で破り、続く2回戦では宮津優輝選手(北海道・函館ボクシング協会)をKO(1R2分17秒)で危なげなく勝ち進んだ。決勝では同大会で過去に3度の優勝経験のある遠藤広大選手(福島県・ハツ橋設備)と対戦。序盤から積極的に攻撃するも、優勝経験のあるベテラン選手に苦戦し、3Rまで決定打を決める事ができなかったが、5-0の判定勝ちで優勝を飾った。試合後近藤1士は、「1・2回戦は自分が試合しやすい選手だった。しかし決勝は自分のボクシングが出来なかった。まだまだボクシングが下手、もっと練習をして強くなっていきたい。」と豊富を語った。近藤1士は11月20日から鹿児島県阿久根市総合体育館で行われる全日本ボクシング選手権に出場し優勝を目指す。

※¹RSC…Referee Stop Contest (レフリーストップ コンテスト)

アマチュアボクシングの試合で、技量に差がありすぎる場合や負傷して試合続行不可能と判断した時、レフリーが行う勝敗宣告のことをいう。プロボクシングのテクニカルノックアウト(TKO)に相当する。

※²ボックスオフ…五輪実施階級の今大会優勝者と世界選手権代表者が対戦し、東京五輪選考会の代表権を争う。

全日本女子ボクシング選手権大会 試合結果

氏名	階級	出身地	試合階級	結果
小村 つばさ	3等陸曹	熊本県	フライ級	2回戦敗退
書田 瑞希	陸士長	岡山県	フェザー級	優勝

全日本社会人ボクシング選手権大会 試合結果

氏名	階級	出身地	試合階級	結果
近藤 陸	1等陸士	新潟県	ミドル級	優勝



最優秀選手賞にも輝いた書田士長

この大会は背水の陣で挑んだという。東京五輪出場への思いを強く抱く書田士長は、今大会で優勝出来なければ引退すると決めていた。

大会が近づくにつれ「ボクシングを続けたい、絶対に辞めたくない」という思いが高まり、必ず優勝する気持ちで大会に臨んだ。

フライ級の時は、減量で苦しみ体力的に不安があり、パンチ力もないと感じていた。筋力強化を図り万全の態勢で挑んだ今大会は、自分のパンチに重みがあり威力が増したと実感できた。また体力的にも余裕ができ、良いパフォーマンスが出来たという。

今後は課題であるメンタルを強化し、獲得したチャンピオンベルトを死守するため、12月上旬予定のボックスオフ※²で勝利し、東京五輪出場へ強い意欲を示す。



優秀選手賞に輝いた近藤1士



勝利を喜ぶ副学校長と選手・スタッフ

PHOTO GALLERY

自衛隊体育学校の活躍・活動をWebサイト、Instagramでご覧ください。

http://www.mod.go.jp/gsd/phy_s/index.html

自衛隊体育学校 検索

